

# 北海道の 学校図書館

発行 北海道学校図書館協会  
 会長 黒澤 敏行  
 事務局長 渡部 浩士  
<http://sla.gr.jp/~hokkaido-sla/>  
 印刷所 (株) 有 伸 商 会  
 TEL (011)814-6211

## 平成30年度 青少年読書感想文コンクール 入賞者決定リスト

今年も全道から、たくさんの素晴らしい作品が集まりました。第1次、第2次審査を経て、入賞者が決定しました。12月2日(日)に晴れの表彰式が行われます。入賞者のみなさん、おめでとうございます。

第64回 青少年読書感想文全道コンクール 第44回 北海道指定図書読書感想文コンクール		特別賞入賞者一覧	
北海道知事賞	*「はたらく」を読んで *未来のだるまちゃんの決意 *『最強の地域医療』	函館市旭岡小 4年	三村 真奈
北海道議会議長賞	*『ぼくもぎゅっがだいすきだよ』 *「通学路のその先に」 *『ぼくのふるさと』 *「夢への一步」 *私の未来の道標	音更町下音更中 3年	宇野 天那
北海道教育委員会教育長賞	*ことばの大切さ ・海をわたった「大谷」の言葉 ・私の命の使い方 ・くちびるに歌を持って ・人としての尊厳を本当に奪ったのは	遺愛女子高 3年	館山 紋奈
北海道学校図書館協会会長賞	・さっちゃんとおんなのまほうのて ・すなおな心で思いを言葉に ・ひたむきな姿があたえるもの ・「羊と鋼の森」を読んで ・すべてが輝ける未来へ	苫小牧市苫小牧東小 1年	温井 柚稀
毎日新聞社賞	・「がっこうだってどきどきしてる」を読んで ・私と読書 ・本当の幸せ ・自分を好きになることの大切さ ・見えない障害と私の夢	旭川市西御料地小 3年	西野 実亜
北海道読書推進運動協議会長賞	・「お話がひろがっていく」 ・折り紙でたくさんの笑顔を ・孤独	苫小牧市ウトナイ小 5年	山内 颯大
北海道青少年育成協会会長賞	・ミッション、パッション、アクション! ・「太陽と月の大地」より ・『珍獣ドクターのドタバタ診察日記』を読んで	苫小牧市沼ノ端中 1年	久保 友櫻
北海道PTA連合会長賞 北海道高等学校PTA連合会長賞 北海道教育振興会長賞	・『夜と霧』を読んで 私が生きる意味を問う ・すっぱりめがねとこうしき球 ・二人に教えてもらった事 ・災害から学ぶ未来 ・自分と向き合うこと ・愛する人には	函館商業高 1年	高本 弥生
北海道教育文化協会賞	・一〇五度のワケ ・助けた命に支えられて ・「髪がつなぐ物語」を読んで	室蘭市水元小 2年	南川 安菜
はるにれ賞 教育出版社賞 文研出版社賞 北海道図書教材協会賞 図書館ネットワーク賞 北海教育評論社賞 光陽社賞	*エディと私のちょう戦 ・ねこやのみいちゃん ・働くことの大切さ ・いのちのいろえんぴつを読んで ・自分だけの個性 ・「いろいろいっぱい」をよんで	苫小牧市若草小 3年	佐藤 瞭真
学校賞	小学校の部 中学校の部 高等学校の部	音更町鈴蘭小 5年	宇野 仁海
		札幌市向陵中 2年	渡邊 光麗
		札幌聖心女子学院高 3年	瀧田 小麦
		室蘭市八丁平小 2年	岡野 日咲
		苫小牧市錦岡小 4年	河毛 優芽
		札幌市桑園小 5年	岡 七海
		苫小牧市開成中 3年	木瀬 柚月
		遺愛女子高 2年	大山 芽依
		室蘭市八丁平小 2年	塩谷 桜彩
		小樽市山の手小 4年	岩松 莉香
		函館市赤川小 5年	渡辺 愛
		遺愛女子中 3年	村上 紗可
		帯広南商高 3年	小池 菜月
		旭川市愛宕東小 2年	穴吹 瑠
		滝川市明苑中 1年	横山 光
		登別明日中等教育 4年生	中村 湊晋
		室蘭市知利別小 6年	佐藤 優実
		室蘭市桜蘭中 3年	成田 晴海
		室蘭市八丁平小 5年	岡垣 晴姫
		札幌聖心女子学院高 3年	須藤 あまね
		室蘭市旭ヶ丘小 2年	坂本 天心
		室蘭市八丁平小 4年	岡野 衣吹
		室蘭市高砂小 5年	吉田 新捺
		藤女子中 3年	梶原 ひより
		札幌光星高 2年	加藤 ひより
		小樽市松ヶ枝中 1年	齊藤 大翔
		登別明日中等教育 4年生	小林 拓暉
		室蘭市八丁平小 3年	成島 幸花
		室蘭市みなと小 5年	篠崎 未来
		旭川市江丹別小 2年	中村 彩香
		室蘭市八丁平小 4年	中居 琉南
		旭川市東五条小 4年	三高 乃蒼
		室蘭市旭ヶ丘小 6年	西田 遥
		室蘭市海陽小 1年	橋本 舜太
		室蘭市立八丁平小学校	
		札幌市立向陵中学校	
		遺愛女子高等学校	

\*は、全国コンクール応募作品です。(各部から代表～自由1点・課題1点)

## 北海道知事賞

### 「はたらく」を読んで

函館市立旭岡小学校 4年 三村真奈

キラキラと目をかがやかせ、ニッコリとした子ども達の笑顔。楽しそうだと本の表紙を見て感じたと同時に、「はたらく」という題名に何か不自然さを感じて気になりました。「はたらく」って何だろう？私は、父がスーツを着て会社に行き、仕事をするのが働くことだと思っています。ですから、笑顔の子ども達と「はたらく」の題名の意味を知りたくなりました。

私は、食器を洗ったり、洗たく物を干したりして、百円をもらったことがあります。でも、それはお手伝いをしているのであって、働いているわけではありません。

本を読み進めていくと、私はおどろくことばかりでした。子ども達がお手伝いではなく、仕事をしているのです。小さな五才くらいの子どものが、小さなその手で。

「どうして子どもが働いているんだろう？」学校にも行けず、生きていくために、食べるために、大切な家族のために、手や服をよごしながら辛い仕事をしなくてはならないのです。私は、表紙のあの笑顔を思い出しが付きました。「辛い仕事をしなくてはならない」と考えるのではなく、仕事をする事によるこびを感じているのだと。

私はこの子ども達が、働くことで誰かの役に立っている、働くことにほこりをもっていると考えていることに感動しました。責任感をもち、自分のためだけでないという気持ちになれるなんて素晴らしいと思うのです。

もし、私が同じように働くとしたら……。正直、想像が付きませんでした。泣いてはいないだろうか。家族のためという気持ちになって、責任をもってやりきれんのだろうか。気持ちが強くなれず心がおれてしまうのではないだろうか。あの子のようにキラキラとした笑顔で働くことはで

きるのだろうか。お手伝いをたのまれた時でも、仕方ないと思ったり、面どうだなど感じたりすることがある私には、考えられなかったのです。

しかし、この本と出会い、キラキラとした目を見て、じょじょに考え方が変わってきました。どのような場所で生活していても、どのようなじょうきょうにあったとしても、人を想う気持ちがあれば、素敵な笑顔になれるのです。そして、人を想う時間を大切に過ごしていれば、日々の生活一つ一つによるこびを感じることができるのです。

父も母も、私のために、家族のために、世の中のだれかのために働いているのだと思いました。そうすることでみんなが笑顔になれるのです。私も、今、私にできることをしっかりとやりとげていきたいと思いました。

しかし、キラキラした楽しそうにしている子ども達は、幸せなのかもしれませんが、やはり、始めに感じた不自然さが残りました。なぜ、子どもが働かなくては生活できないのか。私は将来、世界中の子ども達が働かなくても幸せだと思えるような、そんな仕事につきたいと考えています。



長倉 洋海 著  
『はたらく』  
(アリス館)

## 北海道知事賞

## 未来のだるまちゃんの決意

音更町立下音更中学校 3年 宇野 天那

「あら…！」

ニュースを見ていたらしい母が少しびっくりしたように声をあげた。

「どうしたの？」

と私が聞くと

「だるまちゃんの作者の方が亡くなっちゃったんだって…。」と寂しそうに言った。

「だるまちゃん」というのは『だるまちゃんとてんぐちゃん』という絵本のことで、小さい頃から私が大好きな本の一冊だ。

数年前、私も妹も大きくなってもう絵本は読まないから、お気に入りの本だけ残して後はいとこの子にあげようということになった。しばらく段ボール箱に納められていたたくさんの絵本を見た途端、私は懐かしさで一杯になった。その時はまだ小学校の高学年だから、懐かしいといっても六～七年前なだけで何十年も経っている訳ではないけれど、久しぶりに見た絵本の表紙はやっぱり懐かしかった。

そこからは残す絵本を選ぶ作業よりも読むことに夢中になった。満足した時間の後、手元に置いておきたい本として、私はもちろん妹も母もみんなの意見が一致した中に、『だるまちゃんとてんぐちゃん』があった。

その本は、昔母も子供の頃に何度も読み返すくらい大好きだったそうだ。母が子供の頃なんて、もう何十年も前だ。その時は

「へー！そんな昔からあった本なんだ！」

と思っただけだった。

そして、今年の五月。その作者の加古里子さんが亡くなった。九十二歳という高齢だったことも、「里子」と書いて「さとし」という読み方だったこともその時初めて知ったくらい作者の存在を考えたことがなかったのに、亡くなったと聞いて寂しいような悲しいようなとても不思議な気持ちになった。それは見ず知らずの方が亡くなったというより、とても小さい頃に何回か会ったことがあって、可愛がってもらった記憶さえある親戚のおじいちゃんが亡くなったと聞かされたくらいの切ない感情と近い距離感だった。

そんな気持ちのまま、この『未来のだるまちゃんへ』という本を読み、私は自分の中の不思議な気持ちに納得した。私は絵本を通して作者である加古さんに愛されていたということがわかったからだ。当然私だけではなく、加古さんは子供という存在を愛し、また子供や子供の世界を大切に、子供の気持ちを尊重し、子供と真剣に向き合って絵本を描いていた。絵本の中には加古さんの思いの全てがあちこちに散りばめられていたのだ。だからこそ何十年も前からずっと、加古さんの描く絵本はみんなに愛され続けているのだ。

加古さんは大人だけれど絶対に子供を見くびらない。

子供に対して「子供のくせに」なんてぞんざいに扱ったりしない。子供だって大人や周りに気を使って我慢していることがあるということも、大人の理不尽さに腹が立って言い返したいのをぐっと堪えていることも、加古さんはちゃんとわかっていてくれる大人だ。子供は大人には及ばなくても自分で考える力もちゃんとあるし、大人以上に色々感じていることもわかっていることもたくさんあるのだと加古さんは言ってくれる。加古さんは自分達も昔は同じ子供だったということは何十年経っても忘れないでい続けてくれた大人だ。もちろん私の周りにもそういう大人もいるけれど、大好きな絵本の作者が、しかも九十歳を過ぎている大人のあのベテランが、子供の一番の理解者だということがわかって、なんだかとても嬉しかった。

私は今中三。受験生だ。私には将来やりたいことがある。それはもしかしたらあまり現実的ではなく、困難な道かも知れなくて悩むこともあるのだが、この本の中に幼い頃の加古さんが親に止められてもあの手この手で親の目をかいくぐり、大好きな漫画を隠れて描き続けたエピソードがある。時代は戦争直前でしかも男の子となると、現代より親の目はもちろん社会の目もかなり厳しかったと思うのだが、加古さんはこう言う。

「本当に好きなことならこんなふうに何としてもやるものだ。」

「やりたいことに向かって自らの意思で、自らの力を注ぐのが子供というものだ。」

まるで本当のおじいちゃんから優しく背中を押してもらったような気持ちになった。

私はまだ子供だから、嫌いな勉強もしなければならぬし、不自由なことばかりあると思ってはいたけれど、子供だからこそ、やりたいことに向かって全力で取り組むことができる。それがうまくいくかどうかなんて考えなくていい。ただそれに打ち込めばいいのだ。

「未来のだるまちゃん」は私だ。この本を通して加古さんは、もとい、さとしおじいちゃんは、私に本当に宝物のような言葉をたくさんプレゼントしてくれた。おじいちゃんからの宝物を胸に、私は目標に向かって真剣に堂々と、がむしゃらに、突き進んで行こう。

かこさとし 著

『未来のだるまちゃんへ』  
(文春文庫)

## 北海道知事賞

## 『最強の地域医療』

遺愛女子高等学校 3年 館山 紋奈

「紋奈、好物を貰ったよ！」父が帰ってきてそう言うとはすぐに玄関へ走っていく。新鮮な鮭、雲丹、昆布、鮪…。父がお客さんからいただく海産物は本当に美味しい。

私の父は、戸井という漁業が盛んな町で、ガソリンスタンドを営んでいる。父の実家も戸井にあるので、私もよく遊びに行く。私は戸井に行くとき必ず海を眺めることにしている。美しく照り輝く海を眺める時間は何にも代え難い。私は戸井の町が好きだ。だが、戸井は医療の地域格差が問題となっている北海道の中で特にそれが深刻な地域でもある。お正月やお盆に、戸井にある祖母の家に行くと親戚も沢山集まっているのだが、子供の姿は、私と姉、そしてはとこが二人だけである。高齢者が多く集まると、会話の大半は病気の話である。腰が痛い、B型肝炎がどうだ、最近〇〇さんが認知症っぽい…。皆、大変そうだ。病院へは、車で時間をかけて行かなければならない。だが一人暮らしをしていて、それすら困難な状況にある人も少なくない。戸井の現状を変えるには、どうすれば良いのだろう。

『最強の地域医療』書店で、このタイトルが私の目に飛び込んできた時、見つけた、と思った。そして一心に読み進めた。

この本の著者、村上智彦医師は夕張が財政破綻した際に、夕張の医療を立て直した人だ。財政破綻した際の夕張が抱えていた負債は六三二億円。到底見当もつかない数字だ。どうして彼は医療の再建を出来たのだろう。一口に医療を立て直すと言っても多種多様な方法があるはずだ。まず、村上医師は、夕張の地域性や住民の地域との関わり方を鋭い目で観察した。その中で夕張の人々や歴史的背景、社会的構造を吟味し、医療だけでなく地域全体に視野を広げて、立て直しを図った。改革を起す上ではその土地の地域性を知っていることが必要だ。そこで、私も戸井の現状について調べてみることにした。試しに人口のデータを参考にグラフを作ってみると、やはり、老年人口はほぼ横ばいだが、年少人口と生産年齢人口は明らかに右肩下がりで、相対的な高齢化が起こっているようだ。しかし高齢者の人口に比べ、明らかに高齢者施設は不足している。戸井の人々の健康を守るには、高齢者医療の充実が不可欠だと感じた。

また、地域の人々を主体として改革をしたことも村上医師の勝因の一つだ。「よく地域で住民参加などと言うと『素人だから』『専門的な知識がないから』といった否定的な言葉が出てきますが、実はそんなことよりも覚悟と愛着と物語の方が大切だということを実感しています。」彼のこんな言葉が印象的だった。彼の作ったクリニックには年功序列制度も終身雇用制度もない。その代

わり基本給十六万円を保証し、それに能力給や資格給が上乘せされるのだ。だから地元の高齢者が一生働き続けることも可能だという。また、彼は「地元にいる隣のおばちゃん」を雇用することで、地域の雇用拡大を図り、活性化に繋がった。地域の可能性を十分に引き出す、そんな彼の経営方針に私は感銘を受けた。地元の人を主体にするということは、改革に来た村上医師自身が影を潜めなければならないこともあっただろう。また、村上医師は夕張の人々の心を変えるため、声高に批判をし、嫌われ者となることさえあったそうだ。私も学校行事でリーダーを務めた際には、そのような状況に遭遇することがある。意見を言っても自分が悪者になっても行事の成功のためには言うしかない。そう思うことがある。だが、実際にそうするのは本当に怖い。言った後、冷たい空気を感じると、たとえそれが必要なことであっても、言わなければ良かったと思ってしまう。彼がその自己消去の寂しさに耐えて夕張を再建できたのは、夕張への強い思い、熱意があったからなのだと思う。地域の活性化のために、国がある程度のマニュアルを示すことは出来るだろう。しかし最終的に一番大切になってくるのは、地元の人々の故郷へのたぎる思い、地元の人々の力なのだ。

私は今までも、戸井の医療を担う医師になりたいと考えていた。だが、それは単なるぼんやりとした夢でしかなかった。この本を通して村上医師の生き方に触れ、実現のためのヒントを得られたような気がする。広い視野を持つこと。地域にしっかりと根差すこと。地域への強い愛を大切にすること。「最強の地域医療」の実現に必要なのはそういうことなのだ。村上医師に教えられた。私も、夢の実現のための道のりは長いですが、まずは、戸井についての理解を深めることから始めよう。それが第一歩だ。それから戸井の地域性としてしっかりと向き合い、戸井の人たちと協力して、戸井らしいまちづくり、そしてその延長線上にある戸井の医療の活性化を目指していこう。

戸井にとっての「最強の地域医療」とは何だろう。この問いに真摯に向き合い、私の為すべきことを探していきたいと思う。大好きな町だからこそ出来ることがあると信じて。



村上 智彦 著  
『最強の地域医療』  
(KKベストセラーズ)

## 北海道議会議長賞

# ぼくもぎゅっがだいすきだよ

苫小牧市立苫小牧東小学校 1年 温井 柚 稀

ぼくね、サボタのかなしいきもちがわかるよ。ぼくもだいすきなひとにぎゅっとされないうきもちをそうぞうしてみたよ。

——かなしいね。ところがいたいよ。

ぼくは、おかあさんにぎゅっとしてもらうのがすきだよ。ぎゅっとされたら、ぼくもぎゅーってするよ。うれしいきもちになるよ。ところがボカボカするよ。ところがやすまるよ。ぼくはうでのなかでニッコリしてるんだ。

ぼくね、おにいちゃんとけんかしたとき、

「もういいよ！ふん！」

といったんだ。おくちはむぎゅっとして、むねのまえてうでをくんで、かおはおにいちゃんのはんたいをみた。

するとおかあさんが

「あら、サボタとおなじだね。」

といったよ。ぼくは、なにがおなじなのかかんがえたよ。

サボタはみんなにぎゅっとしてほしいきもちをわかってもらえず、かなしくて、くやしくて、おうちにとじこもった。こころのとびらをとじたんだね。「もういいよ！ふんっ！」といったぼくも、かなしくて、くやしくて、こころのとびらをとじた。これがぼくとサボタのおなじ。

かなしくて、くやしくて、わかってほしいきもちだね。

おかあさんはいつも、ぼくとおにいちゃんがケンカをしたさいごは、「ぎゅっとしなさい」という。なかなかおりのぎゅっ。ぼくはガンコでなきむしだから、いつもおにいちゃんからぎゅっとしてくれる。ごめんね、ぼくもわるいところがある。いつもさきにぎゅっとしてくれてありがとう。おにいちゃんのおそばがいちばんすきだよ。こんどはぼくからぎゅっとしてできるようにがんばるよ。

サボタはよいともだちができてよかったね。サボタはイシコのかなしいきもちにきづいてあげられたからだね。

ぼくも、かなしいきもちのともだちがいたら、ぎゅっとしてあげよう。ぎゅっは、あったかいきもちだから。

シモーナ・チラオロ 著

『だれかぼくをぎゅっとして！』

(徳間書店)



## 総 評

審査委員長 北海道学校図書館協会副会長 栗原 靖  
(札幌市立北園小学校長)

今年度の第64回青少年読書感想文全道コンクール、第44回北海道指定図書読書感想文コンクールには、全道各地の各支部で厳正に審査され選び抜かれた720点もの力作が寄せられました。指導に当たられた道内の先生方の読書教育への情熱と子どもたちの読書環境を支えてくださった保護者の皆様の熱意も作品を通して伝わってきました。改めて感謝を申し上げます。今年度の最終審査におきましても、総勢25名の審査員が5部門に分かれ、時間をかけて熱心な話し合いを行い、作品に込められた子どもたちの思いをしっかりと受け止めながら、厳正に審査を進めて参りました。

小学校低学年の作品には、心動かされる子どもらしい作品が多く、書き手の心の動きや生活の様子がストレートに伝わってきました。中学年の作品には、登場人物になり切ったかのように楽しんで読んでいるものが多く、強い正義感や旺盛な好奇心を基にしっかりと読み込んでいることも感じられました。高学年の作品では、日頃から多くの本を読み、その中で特に自分の心に響いた本を選び感想文を書いたと思われる作品が印象に残りました。様々な考え方や表現に触れた故、考えや思いが深まるとともに伝える言葉も豊かになっていると感じました。中学生の作品からは、この本に出合えてよかったという思いが多くの感想文に表れていました。作品を何度も読み返し、語られていることを的確に捉え、構成を工夫し字数を有効に活用して自分の言葉でしっかりと表現していました。高等学校の作品では、多くの作品から、読書を通して自分の生き方を見つめ、夢の実現に向けて力強く進もうとしている意志が感じられました。また、登場人物と自身の体験の比較や鋭い切り口からの主張、感性豊かな表現など、読み手を惹きつける工夫も多く、読み応えがありました。

読書感想文を書くことは、読みながら著者または自分自身と対話し、疑問・葛藤・共感など、思考をしながらそれらを表現する能動的な活動であり、「生きる力」を付ける取組と言えます。今後も多くの児童生徒の皆さんが豊かで深い読書を進め、主体的にこのコンクールに参加してくれることを願っています。

## 北海道議会議長賞

# ぼくのふるさと

苫小牧市立ウトナイ小学校 5年 山内 颯 太

「北海道」！なんて良い名前なのだろう。本を読むまでぼくは北海道がどのように名付けられたのか考えたこともなかった。

なぞのエゾ地が北海道になったのは松浦武四郎という人物が努力し続けてくれたからだ。北海道だけでなく今の北方領土の方にまで調査に向かい、地図を作り地名を記録する。その地名はアイヌの人から聞いたもので、その由来もまとめていた。

北海道は武四郎の案では「北加伊道」の字で「加伊」というのはアイヌの人達を指す。北のアイヌの国…ぼくは北海道やアイヌについて考えるきっかけをこの本からもらった。

ぼくの住む苫小牧市もアイヌ語の「沼のあるマコマイ川」からつけられている。となり町の白老町には国立のアイヌ民族博物館が出来る予定だし、宿泊学習で日高に向かう途中では平取町のアイヌのチセ群を見てきた。四年生の時にはアイヌ学習でムックリを演奏したり、おどったりもした。アイヌの文化はわりと身近にあるような気がする。

夏休み、阿寒湖のアイヌコタンへ行ってきた。民芸店のおじさんにフクロウはアイヌの守り神であること、魔除けの模様があることを聞いた。木で作られた民芸品は細かく彫られていてビックリしたし、色があざやかでとてもきれいだった。「薬品を使って色をつけて焼いたから色は落ちないよ」とおじさんが教えてくれた。昔からずっと引きつがれているアイヌ文化を少し知ることができてうれしかった。

武四郎もアイヌの人々の文化を知った時、うれしかったり面白いと思ったりしたのだろうか。武四郎は調査の間、アイヌの人達と同じ物を食べ、一緒に生活してきたそうだが、そのような和人はとてもめずらしかったらし

い。アイヌの人々を苦しめていた松前藩を幕府にうたがえていたため命をねらわれ続けたが、それでもアイヌの人々が平和に暮らせるよう行動で示していたのが本当にすばらしく、ぼくは武四郎が北海道の名前をつけてくれたことをほこらしく思う。ぼくが武四郎の立場なら、知らない言葉話し、知らない文化を持つ人達のことを受け入れ、尊重することができるだろうかと考えてしまった。武四郎のように公正で優しく強い人になりたいと思う。

北海道が今の北海道になるまでにはアイヌの人々や武四郎だけではなく、他にも開拓してくれた多くの人々や、北海道の自然や文化を守ってくれた先人達のおかげだと思ふ。

豊かな自然、おいしい空気に海の幸、じゃがいもとうきび、牛乳。まっすぐで広い道路、夏でもすごしやすい気候…北海道の大好きなところはいっぱいある。北海道をつくってくれたり、守ってくれたりした今までの人達に感謝しながら、これからも北海道でがんばっていききたいと思う。

北海道が自然も食べ物も文化も人々も豊かなままでいられるよう、環境を大事にしていきたい。北海道、命名百五十年、おめでとう。

関屋 敏隆 著

『北加伊道 松浦武四郎のエゾ地探検』

(ポプラ社)



平成30年度 北海道の先生がおすすめする本

# 北海道指定図書

小学校低学年の部



### いろいろ はっぱ

小寺 卓矢/写真・文  
アリス館 定価1,400円+税  
まる、さんかく、ハート…たのしい葉っぱがたくさん登場！さいごは、みんな枯れて土になり、つぎの葉っぱの準備をするよ。



### シマフクロウのぽこ

志茂田 景樹/文 木島 誠悟/絵  
ポプラ社 定価1,380円+税  
実在する障害のあるシマフクロウの「ちび」をモデルに、野生動物と人間とが共生するにはどうしたらいいかを考える絵本。



### いろいろ いっぱい

ちぎゅうの さまざまな いきもの  
ニコラ・デイビス/文 エミリー・サットン/絵  
越智 典子/訳 ゴブリン書房 定価1,500円+税  
地球は生きものであふれていて、そのすべてが(もちろん、わたしたち人間も)複雑に結びついていることを伝える科学絵本。



### あめのひ

サム・アッシャー/作・絵 吉上 恭太/訳  
徳間書店 定価1,600円+税  
朝からの雨がやっつやんで、おじいちゃんとかげと…？ 雨を楽しむ気持ちをいねいに描く、ファンタジックな絵本。

## 小学校中学年の部



### キワさんのたまご

宇佐美 牧子/作 藤原 ヒロコ/絵  
ポプラ社 定価1,200円+税  
夏休み、養鶏を営むキワさんに出会ったサトシ。キワさんの「まぼろしのたまご」がほしくなるが…。少年の成長を描く物語。



### はたらく

長倉 洋海/写真・文  
アリス館 定価1,400円+税  
山で羊を育てる少年。両親のかわりに市場で野菜を売る少女。世界各地で出会った子どもたちは、助け合い、生きる力にあふれていた。



### さらわれたチンパンジー

愛蔵版 野生どうぶつを救え！ 本当にあった涙の物語  
ジェス・フレンチ/著 嶋田 香/訳  
汐文社 定価1,500円+税  
赤ちゃんチンパンジーのシノワーズは密猟者に捕まりペット屋台に売られてしまう…。彼が救出され、幸せになるまでを描く感動実話！

## 小学校高学年の部



### 幽霊ランナー

岡田 潤/作  
金の星社 定価1,300円+税  
幽霊ランナーと呼ばれる優。人知れず現れる中学生ランナーに指導を受け、走法が変わっていく。そしてマラソン大会がやってくる。



### 世界を救うパンの缶詰

菅 聖子/文 やました こうへい/絵  
ほるぶ出版 定価1,400円+税  
阪神淡路大震災の被災者からの声をきっかけに生まれた、3年経ってもおいしい非常食「パンの缶詰」。開発した町のパン屋さんのお話。



### あした飛ぶ

東田 澄江/作 しんや ゆう子/絵  
学研 定価1,400円+税  
ある日、星乃は、はねに星マークが描かれた蝶をつかまえた。遠い場所に住む二人の気持ちをつなぐものは…。

中学校の部



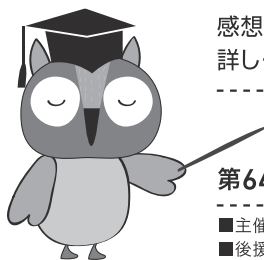
### 14歳の世渡り術 栗山魂

栗山 英樹/著  
河出書房新社 定価1,300円+税  
一度たりともあきらめなかった。夢はかなえるためである。栗山監督が自分の人生を通して伝えたかった努力の大切さ。



### ひらけ蘭学のとびら

『解体新書』をつくった杉田玄白と蘭方医たち  
鳴海 風/著 関屋 敏隆/画 岩崎書店 定価1,500円+税  
杉田玄白と解体新書を題材にした歴史小説。幼少期から解体新書刊行までの物語。困難を乗り越える大切さを伝えたい。



感想文は夏休み明けに、学校に出してください。  
詳しくは、「応募のきまり」をご覧ください。

●ホームページ

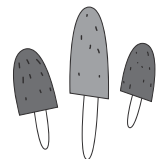
北海道学校図書館協会 [検索](#)

## 北海道の本を読みましょう！

第64回 青少年読書感想文全道コンクール 第44回 北海道指定図書読書感想文コンクール

■主催/北海道学校図書館協会・毎日新聞社北海道支社

■後援/北海道・北海道議会・北海道教育委員会・公益財団法人北海道青少年育成協会 ■選定協力/北海道読書推進運動協議会



## 優 秀 賞

### 小学校（低学年）の部（12名）

作 品 名	氏 名	学 校 名	学年
・「まほうのじどうはんばいき」を読んで	山 崎 紗 和	苫小牧市糸井小	2年
・二つの心	和 田 明 栞	函館市北美原小	2年
・やさしいことば	川 岸 紗 葉	函館市北美原小	2年
・学校だってキラキラしている	豊 沢 峰 々	札幌市大谷地小	1年
・「がっこうだってどきどきしてる」を読んで	伊 藤 來 紅	森町さわら小	2年
・たいせつなともだちに	高 橋 祐 香	函館市北美原小	1年
・学校だってどきどきしてるんだ	飯 尾 晃 己	小樽市山の手小	2年
・「がっこうだってどきどきしてる」を読んで	佐 川 柚 來	札幌市栄西小	2年
・お友だちっていいな	米 田 和々花	留萌市港北小	2年
・いいことあるよ	伊 藤 優 花	室蘭市高砂小	2年
・シマフクロウのぼこを読んで	齋 藤 楓 子	札幌市日新小	2年
・「シマフクロウのぼこ」を読んで	富 居 玲 衣	教育大附属旭川小	2年

### 小学校（中学年）の部（12名）

作 品 名	氏 名	学 校 名	学年
・「髪がつなぐ物語」を読んで	小 川 紗 瑛	函館市北美原小	4年
・「ココロ屋」を読んで	河 邊 英 大	小樽市山の手小	3年
・ちいちゃんの強さ	安 田 朱 里	苫小牧市拓進小	3年
・たくさんのことを学びたい	木 村 翠 有	北斗市上磯小	4年
・「人間と動物をへだてているもの」	三 島 和	札幌市北九条小	3年
・「森のおくから」を読んで	宮 本 蒼	函館市北美原小	4年
・せかいの大変な通学路とがんばる子どもたち	門 田 亜 采	函館市本通小	3年
・「すごいね！みんなの通学路」を読んで	高 澤 真桜子	室蘭市喜門岱小	3年
・笑顔ではたらく子ども	福 岡 唯	留萌市留萌小	4年
・「キワさんのたまご」を読んで	福 田 愛 恵	函館市深堀小	4年
・「はたらく」を読んで	佐々木 結希奈	北斗市浜分小	3年
・『ぜったいにじゅういになる』	石 村 紗 羅	苫小牧市明野小	3年

### 小学校（高学年）の部（12名）

作 品 名	氏 名	学 校 名	学年
・つながり	高 澤 真佑子	室蘭市喜門岱小	6年
・チョコレートから見る社会問題	長 井 悠	室蘭市高砂小	5年
・「自分らしく!!」	原 田 葵	札幌市大谷地小	6年
・「チームの力」「チームふたり」を読んで	小 野 琉 峯	函館市北美原小	6年
・奮闘する介護	鳥 巢 文 那	岩見沢市東小	6年
・今、自分にできる事を	山 野 愛 佳	苫小牧市明德小	6年
・「かしこい」を学ぶ	米 田 愛 佳	留萌市港北小	5年
・曾祖母が教えてくれたこと	佐 伯 愛 花	留萌市東光小	6年
・やり遂げることの大切さ	松 田 莉 奈	札幌市宮の森小	6年
・「何事もチャレンジだ！」	坂 木 琉 斗	苫小牧市拓進小	5年
・「世界を救うパンの缶詰」を読んで	富 居 嵩 太	教育大附属旭川小	5年
・あした飛ぶとは生きること	中 居 陽 夏	室蘭市八丁平小	6年



# 優 秀 賞

## 中学校の部 (15名)

作 品 名	氏 名	学 校 名	学年
・「いつ死ぬかわからないからこそ」	井 澤 陽 菜	岩見沢市北村中	2年
・運命に抗い強く生きたチャーリィに学んだこと	山 口 朋 花	岩見沢市光陵中	3年
・私の見つけたベッポとジジ	原 杏 奈	藤女子中	1年
・偏見と向き合う	佐々木 あかり	登別明日中等教育	3回生
・面倒だからしよう	刈 屋 悠 歌	登別明日中等教育	3回生
・今のわたしに必要なこと	工 藤 侑 和	旭川市広陵中	1年
・「未来へと続く扉」	井 川 若 菜	教育大附属函館中	1年
・大切にしたい「一〇五度の関係」	大 崎 逢	札幌市向陵中	2年
・出会いたいもの	阿 部 菜々美	三笠市三笠中	3年
・大切な田んぼを守るために	菅 原 功 喜	室蘭市室蘭西中	2年
・「ひらけ蘭学のとびら」を読んで	丸 山 紗 世	遺愛女子中	3年
・「栗山魂」を読んで	齋 藤 蓮	知内町知内中	1年
・栗山と自分の違い	岡 村 尚 哉	砂川市砂川中	1年
・栗山魂を読んで	河 邊 梨 花	小樽市菁園中	1年
・自分との約束	伏 見 優 花	室蘭市桜蘭中	2年

## 高等学校の部 (12名)

作 品 名	氏 名	学 校 名	学年
・平和を願って～僕が語り継ぐべきこと	小 西 海 翔	北海高	2年
・村田エフェンディ滞土録を読んで考えたこと	大久保 絵 未	札幌聖心女子学院高	3年
・松浦武四郎という人物	高 橋 実 来	士別翔雲高	2年
・人生のタスク	佐々木 茉 弥	帯広南商高	3年
・「あるがまんま。そのまんま。」を読んで。	小 野 愛 果	帯広南商高	2年
・人は変わる	五十嵐 唯 翔	清水高	1年
・「阿修羅ガール」を読んで	岸 本 花 歩	帯広緑陽高	3年
・『ローマ法王に米を食べさせた男』を読んで	千 葉 文 香	登別明日中等教育	4回生
・「キャプテンー君は何かができる」を読んで	二階堂 ゆうな	遺愛女子高	2年
・命の輝きを知って～向き合うことの大切さ	小 西 海 翔	北海高	2年
・「いのち」	村 木 映 月	帯広緑陽高	3年
・「いのちは贈りもの」、私はこう考える	田 村 幸 太	穂別高	3年

### ◆感想文集『北海道の読書』(平成30年度版)の普及を

#### 第64回青少年読書感想文全道コンクール入賞作品集

○小学校版 (1,000円)

特別・優秀・優良 入賞者全作品を掲載

○中学校・高等学校版 (1,000円)

特別・優秀・優良 入賞者全作品を掲載

【申し込み・問い合わせ先】

[北海道学校図書館協会HP](#) > [読書感想文コンクール](#) > [北海道の読書](#) > [学校宛・個人](#)

札幌市立西岡南小学校 教諭 佐藤秀則 FAX 011-582-1590

# 優良賞

## 小学校（低学年）の部

室蘭市八丁平小	1年	加藤 結翔
森町森小	2年	阿部 萌菜
函館市北美原小	2年	武田 莉歩
小樽市山の手小	1年	川村 恵
室蘭市蘭北小	2年	熊澤 陽葵
旭川市江丹別小	2年	荒川 星夏
森町森小	2年	伊藤 大暁
苫小牧市苫小牧東小	1年	細井 睦
岩見沢市第一小	2年	竹田 真綾
室蘭市八丁平小	2年	大槻 樹音
室蘭市八丁平小	1年	熊谷 優輝
札幌市新琴似南小	2年	上野 晴南
滝川市西小	2年	矢野 涼菜
札幌市北九条小	1年	三島 緑
森町駒ヶ岳小	2年	吉田 悠希
苫小牧市明德小	2年	岩城 道人
室蘭市八丁平小	1年	石田駿太郎
室蘭市八丁平小	2年	伊賀 ゆい
釧路市中央小	1年	村山 幸良
占冠村トマム小	1年	ラナ マユ

## 小学校（中学年）の部

森町駒ヶ岳小	4年	進藤 めい
苫小牧市ウトナイ小	3年	山内 悠万
苫小牧市明野小	3年	山口 怜那
小樽市山の手小	4年	佐々木陽菜乃
室蘭市海陽小	3年	石岡 芽吹
留萌市東光小	3年	益田 和佳
室蘭市白蘭小	4年	畠山 浩也
小樽市山の手小	4年	水谷内詢平
苫小牧市苫小牧東小	4年	下山寛之晋
苫小牧市緑小	4年	平川 翔太
札幌市北野台小	3年	大野 佑真
旭川市愛宕東小	4年	白取由梨子

岩見沢市幌向小	4年	大森 花音
札幌市福住小	3年	長内 航平
北斗市萩野小	4年	坂田 莉那
室蘭市旭ヶ丘小	3年	小美浪颯土
旭川市陵雲小	4年	工藤 大誠
札幌市白楊小	4年	森 怜衣奈
旭川市緑ヶ丘小	3年	野口 彩
函館市深堀小	3年	加藤 望来

## 小学校（高学年）の部

函館市えさん小	6年	一家 大篤
函館市北美原小	6年	石塚和佳奈
函館市北美原小	6年	齊藤 愛菜
帯広市栄小	5年	田中 志穂
留萌市留萌小	6年	小山凜太郎
室蘭市八丁平小	6年	土居和花奈
室蘭市八丁平小	5年	久保 夏恋
札幌市白楊小	6年	尾田 舞世
滝川市滝川第三小	5年	渡邊 悠生
札幌市日新小	6年	進藤 真央
旭川市神居東小	5年	村山 花恋
美幌町東陽小	5年	高橋 望来
函館三育小	5年	佐藤 桔平
札幌市清田緑小	5年	東地 心菜
函館市弥生小	5年	竹崎 泰史
岩見沢市南小	6年	島田 紘輔
岩見沢市中央小	6年	四宮 愛奈
月形町月形小	6年	高橋 佑太
増毛町増毛小	6年	高橋 愛子
函館市北美原小	6年	千葉 紗弓

## 中学校の部

北斗市大野中	3年	犬飼こより
苫小牧市啓明中	2年	滝澤 花萌
遺愛女子中	2年	小松崎 愛

教育大附属函館中	1年	兵吾 佳泰
函館市亀田中	2年	平松 明華
岩見沢市緑中	3年	多田 朱里
岩見沢市光陵中	3年	上野 嵩弘
岩見沢市光陵中	3年	男澤 和果
旭川市光陽中	3年	坂田 玲
札幌市宮の丘中	2年	伊達 輝
登別明日中等教育	1年生	布施 倅菜
札幌市向陵中	1年	須田 羽奈
幕別町札内中	2年	安齋 萌花
室蘭市室蘭西中	2年	池田 結
札幌市簾舞中	2年	伊田 紗雪
教育大附属函館中	2年	小川 結稀
苫小牧市青翔中	2年	亀田 晴南
函館市巴中	1年	長浜谷圭資
留萌市港南中	2年	山岸 時大
小樽市菁園中	2年	品川 咲季
函館市巴中	2年	對島 颯太
遺愛女子中	1年	菊地 由恵
旭川市神楽中	2年	渡邊 美咲
羽幌町天売中	3年	川口 優夏

## 高等学校の部

留萌高	1年	鈴木 美空
士別翔雲高	3年	胡摩崎ひかる
鹿追高	3年	西田 悠理
帯広南商業高	3年	石野 美咲
帯広柏葉高	2年	高田 柚那
帯広三条高	1年	桐木 風詩
登別明日中等教育	4年生	駒澤 椋
遺愛女子高	1年	堤 まこ
遺愛女子高	1年	丸山 茉綾
滝川高	3年	田中 咲良
帯広三条高	1年	谷川 夏菜
室蘭清水丘高	3年	加藤 千尋

## 支部だより ～函館支部

函館支部は、「函館市学校図書館研究会」という名称で、市内の小中学校の教員と、4人の学校司書から構成されている任意団体です。

事業部では読書感想文コンクール審査及び表彰式、読書感想文集と機関紙の発行、市内小中学校の学校図書館の現況調査を行っています。

研究部では「主体的な学びを支え、豊かな心を育てる学校図書館」の研究テーマのもと、全員が「読書指導」「学び方指導」「管理・運営」のいずれかに所属して活動しています。

今年度は、下記のような活動を行っています。

### 第1回学校図書館運営講座（6月14日）

#### 「豊かな学校図書館をつくるために」～司書教諭と学校司書の連携～

今年度函館市に初めて配置になった学校司書の4人をお迎えして、2か月間の取り組みについて話していただきました。課題については参加者全員で共有し、解決策を考えました。

市内の小中学校へのアンケートをもとに、司書教諭や他の教員との連携についても話し合いました。

### 第2回学校図書館運営講座（8月31日）

#### 「函館市中央図書館・司書から学ぶ図書館のワザ」～中央図書館・バックヤード見学～

函館市中央図書館のバックヤード（閉架書庫等）を、職員の方々の説明を伺いながら見学しました。図書資料の整理や管理、司書の方々の仕事等について、教えていただきました。質問にも丁寧に答えていただき、大変参考になりました。

### 第3回学校図書館運営講座（1月）「朗読をプロから学ぼう」

アナウンサーを講師として招き、朗読の講座を行う予定です。

その他、年度内に授業研究を予定しています。

今後は会員数を増やし、学校司書と共に学び合いながら、函館の学校図書館の活動をより充実させていきたいと考えています。



第2回学校図書館運営講座より

（文責 函館市学校図書館研究会幹事長 函館市立北星小学校 新沼 誠子）

## 北海道高文連第40回全道高等学校図書館研究大会 (札幌大会) 報告

全道高等学校図書館研究大会が、10月4、5日の両日、北海道教育文化会館等を会場に開催されました。全道から101校625人(生徒490、教職員135)の参加がありました。

オープニングアクトとして、札幌大通高校の和太鼓・伝統芸能部と札幌南高校のダンス部がコラボレーションしてのパフォーマンスを披露。開会式に続いて「図書館活動(T-1)グランプリ2018」です。エントリー24校が図書館での生徒活動の様子や成果をアピールするポスター発表による1次予選を突破した11校が、ステージ上で5分間のプレゼンテーション発表を行いました。会場の生徒の投票により、今年度のグランプリに石狩南高校、準グランプリに帯広柏葉 帯広緑陽の両校が選ばれました。

この後13の分科会に分かれて、約3時間の研修・交流活動に参加しました。10校の当番校が企画、運営をそれぞれ担当した分科会のバラエティに富む内容をご紹介します。

▼第1分科会「うちの図書館がすごいことに?! なるといいなあ会議」▼第2分科会「『書き方』改革 図書館報に載せる“わたし”の原稿」▼第3分科会「ビブリオバトル」▼第4分科会「豆本作り(小さな本の中にも物語)」▼第5分科会「『図書館ディスプレイグッズ』を作ろう!」▼第6分科会「朗読」▼第7分科会「本の構造を知り、製本の基礎知識を学ぶ」▼第8分科会「絵本を使った図書館活動の可能性 絵本セラピー体感」▼第9分科会「私のお気に入り本のPOP作り」▼第10分科会「北海道の作家・文学について」▼第11分科会「もっと古典を楽しもう! ~能楽体験講座」▼第12分科会「創造的な活動を支える『知の拠点』となる図書館」▼第13分科会「博物館の知層にふれる~過去・現在・未来~」

引率顧問を対象とした「図書館担当者」研修会では、長崎県高文連図書館専門部委員長の私立長崎南山高等学校の中島寛教諭をお招きし、図書部、図書委員会の生徒たちが企画、準備から作り上げる「ライブラリー・フェスティバル」についてお話を伺いました。加えて、授業としての「読書科」についてもお話いただき、伝え方、調べ方、探し方、など「学び方」を学び「自ら学ぶ土台をつくる」視点から学校図書館の利活用の実際をご紹介します。



2日目は、「誤読の自由、自由でいるための読書」と題して島田雅彦氏にご講演をいただきました。高校国語の定番教材『こころ』を取り上げるなど、軽やかな語り口で、高校生にも興味深く刺激的な内容で、1時間の時間が短く感じられました。

大会の最後には、図書館報コンクールの表彰があり、出品41校の中から札幌南高が8年連続の最優秀賞を受賞。優秀賞に帯広柏葉、札幌月寒、札幌藻岩の3校、優良賞に小樽潮陵、北見北斗、釧路湖陵、札幌手稲、苫小牧南の4校、奨励賞11校が表彰されました。

本大会は、学校図書館を生徒が主体的な活動や学びの場として盛り上げていこうとする取り組みをお互いに報告しあい、交流しあう貴重な場です。それは読書や学習の場であることにとどまらず、総合的な文化活動へと広がりを見せ、生徒たちの居場所や集いの場ともなろうとしています。それは学校から地域、さらには全国の高校生との交流につなげていくことのできる大きな可能性を持っています。来年は室蘭支部、伊達市での第41回大会です。全道のより多くの学校で、生徒が生き生きと素敵な図書館づくりに携わり、その実践を持ち寄り、学び合うことのできる大会となりますよう、期待しております。

(文責 北海道高文連図書館専門部専門委員 加藤孝志)

## 学校図書館情報

### ◆第51回北海道学校図書館研修講座へご参加を！

- ・日時 平成31年1月8日(火)～10日(木)
  - ・会場 北海道立道民活動センター (かでの2・7) 他
  - ・講演 『『主体的・対話的で深い学び』と学校図書館  
～すべての子どもたちに学ぶ喜びを～』  
専修大学文学部 教授 野口 武悟 氏
  - ・講義・実習・討議・交流の充実した3日間
- ※詳しくは案内要項またはHPでご確認ください。

### ◆第46回中学生作文コンクール審査終了

各地区からの作品応募、審査協力ありがとうございました。「わたしの好きな北海道」のテーマで、今年も1万6千点を超える作品が寄せられました。引き続き、参加校数の拡大と応募数の増加を期待します。

- 中央表彰式** 1月7日(月) 13時開催  
北洋大通センター4階セミナーホール  
(札幌市中央区大通西3丁目7番地)
- ・日胆地区：1月10日(木) 13時開催  
室蘭プリンスホテル4階(桃山の間)
  - ・道南地区：1月11日(金) 11時開催  
函館北洋ビル8階ホール
  - ・道東地区：1月8日(火) 11時開催  
北洋銀行釧路中央支店3階会議室
  - ・道北地区：1月9日(水) 13時開催  
旭川北洋ビル8階小ホール

### ◆第49回学校図書館賞にご応募を！

本賞は次の3区分。応募期間は各部とも2019年1月31日(当日消印有効) <詳しくは全国SLAのHPをご覧ください>

- 運動の部** (学校図書館運動の推進)
- ・学校図書館運動(読書運動を含む)を積極的に推進し、全県、あるいはある地域の学校図書館を著しく振興させた業績を顕彰します。
- 論文の部** (学校図書館に関する著作・論文)
- ・学校図書館(読書指導を含む)について体系的にまとめた著作・論文(博士・修士の学位請求論文は除く)で2018年2月1日以降に完成したもの。学校図書館研究および実践の発展に貢献した業績を顕彰します。
- 実践の部** (学校図書館の実践活動)
- ・学校図書館の経営・運営、読書指導、情報活用能力の育成指導、読書推進活動などにおいて卓越した実践を展開し、学校図書館または子どもの読書の発展に貢献した業績を顕彰します。

## 事務局

事務局長 渡部 浩 士 (札幌市立稲積中学校)  
事務局校 札幌市立稲積中学校  
〒006-0814 札幌市手稲区前田4条5丁目2-1  
TEL 011-684-1430 FAX 011-684-5738

## Amenity B-Coat

本の破損や汚れを防ぎながら、抗菌効果を発揮するブックカバー「アメニティBコート」ポリプロピレンフィルムのため、燃焼時にも塩素ガスなど有害物質が発生せず、安心です。ご指定の上ご愛用ください。

## キハラ株式会社

〒062-0035 札幌市豊平区西岡5条3丁目8-15  
TEL (011) 857-3331  
FAX (011) 857-5211

### ◆『子どもの人権と学校図書館』 渡邊重夫 著

2018年9月25日 青弓社 2000円+税

ISBN978-4-7872-0068-6

本書では、学校図書館が子どもの「学習権」を確保する役割を担っていることを4章に分けて解説。多様な情報を提供できるよう、さまざまな図書をそろえる必要があることや、適切な情報を提供するサービスの重要性を強調。学校図書館で子どもが自ら学習できる環境を整えることが、児童・生徒の成長に必要なだと論じています。

著者「渡邊重夫」さんは全国SLAのスーパーバイザーの一人であり、この本は30年以上の学校図書館研究の集大成です。私たち学校図書館関係者にとっては必読の書と言えます。

## 子どもの人権と 学校図書館



渡邊重夫

Shigeo Watanabe  
学校図書館研究の第一人者として、子どもと学校図書館の関わりを深く研究し、実践のノウハウを伝えている。子どもの人権と学校図書館の関わりを深く研究し、実践のノウハウを伝えている。子どもの人権と学校図書館の関わりを深く研究し、実践のノウハウを伝えている。

青弓社

## 編集後記

あつという間に師走となりました。本号は第64回青少年読書感想文全道コンクールの特集号です。今年も優秀な作品が数多く集まりました。日々ご指導に当たられている皆様のご尽力に敬意を表します。来年も、より多くの参加がありますことを祈念しています。

### お詫びと訂正

303号(前号)3P.下段の記事の4行目の石ヶ森大会事務局長のお名前に間違いがありました。正しくは石ヶ森孝順大会事務局長です。心よりお詫びし、訂正いたします。

(編集:村山 知成 杉本 操 野村 邦重)  
大久保雅人 渡部 浩士

ホームページアドレス

<http://sla.gr.jp/~hokkaido-sla/>